

南海放送

事業の名称

思いを知る、正しく発信する～ふうま君が伝えたいこと～

事業概要

医療的ケア児で人工呼吸器を付けて声を発することのできない小学5年生・山本楓真(ふうま)君を取材対象者として、同級生の児童が自分たちでテーマを決めてインタビューし、作文にまとめて発表。相手の思いを正しく理解し、伝えることを学ぶ機会としました。



ドキュメンタリー番組で経験が豊富な伊東英朗氏(元南海放送ディレクター、ドキュメンタリー映画監督)による3回の授業と、合わせて実施した7回の取材体験、一連の様様をまとめた1回のテレビ放送を実施しました。

◆ 5月10日(水)

取材「伊東氏授業『思いを知る、正しく発信する基本のインタビューとは』」

◆ 6月2日(金)

取材「伊東さんに学んだことを生かしてインタビューしよう」

◆ 6月19日(月)

取材「5年生体験イベント(大洲青少年交流の家)」

◆ 7月11日(火)

取材「伊東氏授業『体験をもとに実際にインタビューをしてみよう』」

◆ 7月19日(水)

取材「インタビューを形にして発信しよう」

◆ 9月14日(木)

取材「発表会～正しく発信できるかな～」

◆ 11月2日(木)

・取材「伊東氏授業『伊東氏講評～思いを正しく発信できたか～』」

・テレビ番組視聴

2023年11月2日(木)『news every.』内 16時～16時5分

「メディアリテラシーって何?松山の小学生がインタビュアーに」

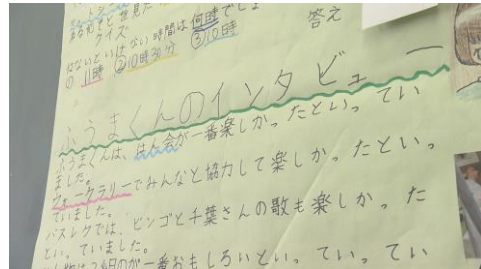
事業の成果

事業に参加してくれた松山市立味生小学校にふうま君は在籍しています。ふうま君は声を発することができず、同級生たちは小学1年生から身振り手振りを交えてそれぞれの方法でコミュニケーションをとってきました。今回、味生小学校を舞台に選んだのは、

そのような児童たちの経験が本事業の学びを通じて血肉となり、今後の学校生活にも役立てると考えたからです。

伊東英朗氏による3回の授業と、合わせて実施した7回の取材体験、一連の模様をまとめた1回のテレビ放送のすべてがテーマと直接つながるものです。

児童たちは班に分かれ、ふうま君へのインタビュー取材を実施し、結果を発表。ふうまくんの取材班はポスター形式で発表し、その中に「ふうまくんのインタビュー」という項目を設け、楽しかったことなどを紹介しました。各班はほかにも新聞やアルバム形式などさまざまな方法で、ふうま君へのインタビューの内容を発信しました。



児童からは以下のような感想が寄せられています。

- ・ 「なぜ」「どこで」「誰に」「何を」を教してもらいました。それを活かし、友達の困ったことや楽しかったことをインタビューして新聞を作りたいです。
- ・ 相手にとっても、自分にとっても良いインタビューのやり方を教わりました。
- ・ 人との関わりはすごく大切だと思いました。僕も伊東さんみたいに人とたくさん関わって言葉づかいなどがうまくなりたいです。
- ・ 相手の気持ちが伝わる動画を撮るためには、それに寄り添ったものを入れるのが良いと分かりました。
- ・ 質問するときはかたくならず、やわらかく話すことと、質問して答えた後にすぐ次の質問しないことが大切だと思いました。
- ・ 友達や初めて会った人への話し方など、いろいろなことを学びました。

メディアの発信に至る過程には、話を聞いて、それを加工するという作業があります。その過程を児童たちが実際に体験することで、「相手が本当に伝えたいこと」を考えてみる、自分だけの作業ではないということを理解する機会になったのではないかと思います。また、実際にカメラなど本物の取材班を授業に参加させ、児童たちへのインタビューを実施し、それがニュース番組の中で放送され、視聴するという流れも体験してもらいました。これは放送局が携わる利点を最大限に活かしたものです。メディアからあふれる膨大な情報の一方的な受け手とならないためにも、感性が若いうちに学ぶべき有意義な取り組みになったと考えます。学校の先生方からも、「通常の授業にはない機会児童たちには良い経験となった」との声をいただきました。



以上